

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29 (2017)・1218 NO59

校長 伊波喜一

関わりて 刺激受けなん 総合の ふれあう中に 広がる理解

12月の学校公開が終わりました。今回もいろいろな教科の様子が見られました。中でも外国語活動の**国際交流**・生活科の**まちたんけん報告会**・総合の**租税教室**などは、外部の方々の協力がなければ成り立ちません。このような教科は、筆者の小学校時代にはありませんでした。国際交流は単に外国語活動というだけでなく、他国の文化理解という面からも大切で、人権教育と密接に関わっています。

また、生活科や総合などでいろいろな人と関わり、コミュニケーションをはかり、ノウハウを伝授してもらうというスタイルは、今後ますます盛んになるでしょう。そうになると、学校での授業のあり方が変わらざるを得ません。知識は日進月歩で変わっていきます。ですから、限られた学校の授業時間内に膨大な知識を伝え切るには、限界があります。例えば、語学学習では様々なツールがあります。それらを上手に組み合わせることで、時間を有効に使えます。

そう考えると、学校の役割は教科の特性と内容を吟味して他者とふれ合う場を作り、直接に刺激を得させることにもありそうです。